

平成 22 年 6 月 8 日現在

研究種目：特定領域
 研究期間：平成 17 年～平成 21 年度
 課題番号：17083010
 研究課題名（和文） 海域比較—インド洋海域世界と地中海海域世界における地域間交流の諸相
 研究課題名（英文） Comparative Study of the Maritime Regions
 研究代表者 羽田正（Haneda Masashi）
 東京大学・東洋文化研究所・教授
 研究者番号：40183090

研究成果の概要（和文）：

インド洋海域と地中海海域における地域間交流の諸相を明らかにするとともに、本班班員が比較の視点から東アジア海域史研究に対して意見を述べることによって、特定領域研究全体の中での本班の役割を果たした。また、他班とともに組織した「東アジア海域史」研究会では、歴史学の実験場としての「東アジア海域」という場を設定し、その過去を多角的、総合的に検討することによって、新しい歴史解釈と叙述の可能性を提起した。

研究成果の概要（英文）：

This research reveals various aspects of cross-cultural exchanges in the Indian Ocean and Mediterranean maritime worlds and plays an important role for the whole research project by providing to it concrete examples and useful comments related to the history of East Asian maritime world. We organized a voluntary study group on the history of East Asian maritime world with researchers from other research groups. Regarding the East Asian maritime world as ground of experiment, we have analyzed its past from various different viewpoints and have made synthesis. We then proposed the possibility of new interpretations and descriptions of the East Asian maritime world and its history.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	4,300,000	0	4,300,000
2006 年度	5,600,000	0	5,600,000
2007 年度	7,000,000	0	7,000,000
2008 年度	8,300,000	0	8,300,000
2009 年度	3,400,000	0	3,400,000
総計	28,600,000	0	28,600,000

研究分野：海洋史

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：海域、港町、比較史、東アジア、インド洋、東シナ海、世界史

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

特定領域全体の題が、「東アジアの海域交流」と銘打たれてはいたが、「東アジア」「海域」「交流」という三つのキーワードについて、参加者間で完全な了解と合意があったわけではない。

海域といえば、フランスの歴史学者ブローデルの『地中海』が常に挙げられる。当初はこの著作のスキームを東アジア海域に応用し、特定領域研究全体として新たな世界システム論を構築することが意図されていた。その中で、本班の果たすべき役割は、「東アジア海域」以外の海域の歴史を専門とする研究者が、比較のための材料を提供し、新たな東アジア海域史構想に資することとされていた。

2. 研究の目的

研究分担者各自がインド洋海域世界と地中海海域世界についての研究を進め、それぞれの特徴を明らかにする。

特定領域研究に所属する他班と協力し、歴史的な東アジア海域世界の特徴と意味を明らかにする。

3. 研究の方法

1) 個人研究による海域の比較

代表者、連携研究者は、それぞれが関心を持つ海域の歴史と東アジア海域史を様々な角度から比較し、研究書、論文として発表する。

2) 「東アジア海域史研究会」の設立と運営

本特定領域研究内他班の有志とともに「東アジア海域史研究会」を組織し共同で研究会を開くことによって、東アジア海域史の把握と叙述の方法を討議する。本班の研究代表者は、この研究会の世話人の一人として会の運営と成果とりまとめに尽力する。この研究会の成果は、全員執筆参加という新しいスタイルを取って、和文、英文の書物としての刊行を目指す。

4. 研究成果

1) 代表者、連携研究者が、それぞれの専門分野で、本特定領域研究諸研究会で得た知見を活かしながら、インド洋海域や地中海、大西洋海域の歴史に関して活発に研究成果を公表した。これら研究成果の多くは、書評や引用によって高い評価を得ている。

2) 「東アジア海域史」研究会の成果として、日本、朝鮮、中国という「国」を単位に理解され、叙述されてきたユーラシア東方の歴史を「海域」という概念を用いて見直し、新しい歴史解釈を示す書物が、平成 22 年度中に出版される。

この本の特色は、以下の 3 点である。1.

「海域」「海域世界」という概念の精緻化を図った。2. 歴史を理解し叙述する際に、ほとんど無意識のうちに前提とされる時系列史にこだわらず、時間的に異なった 3 つの時期を取り上げて、それぞれの東アジア海域の特徴を歴史社会学的方法をも用いて叙述しようとした。3. 分野ごとの個人執筆とせず、執筆者集団が綿密な打ち合わせと相互批判を繰り返し行い、参加者からの情報を集積して、共同で研究成果の総体を分かりやすく示そうとした。本班の研究代表者は、この書物の総論執筆と全体のまとめを担当している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 39 件)

<2005 年>

羽田正「ムスリムの地理的知見と世界像」林佳世子・榎屋友子編『記録と表象：史料が語るイスラーム世界』(『イスラーム地域研究叢書 8』)、東京大学出版会、81-112 頁、2005 年

羽田正「「西アジア」の地域とアイデンティティ」『「東アジア」の時代性』淡水社、169-179 頁、2005 年

羽田正「西アジアの世界遺産」、佐藤信編、『世界遺産と歴史学』、山川出版社、194-204 頁、2005 年

深沢克己「更紗交易とアルメニア人による捺染技術の伝播」『別冊太陽』12. 194-197 頁、2005 年

四日市康博「ジャルグチ考——モンゴル帝国の重層的国家構造および分配システムとの関わりから」『史学雑誌』、第 114 編、第 4 号、1-30 頁、2005 年

四日市康博“Az Siraf be Kish: tejārat-e Oqiyānūs-e Hend va Kish dar ‘asr-e Moghūl.”「シーラーフからキーシュへ：モンゴル時代のキーシュとインド洋交易」*Proceedings of the International Congress of Siraf Port*, pp.125-136, Bonyad-e Iranshenasi, 2005

四日市康博「元代集寧路古城遺址与“陶瓷之路”——研究展望以及今後の課題」「元代都市遺跡「集寧路」と「陶磁の路」——研究の展望および今後の課題」『中国古陶瓷研究 第十一輯』、94-100 頁、紫禁城出版社、2005 年

四日市康博「元朝宮廷における交易管理について」『東 ASIA 3 國の文化交流』、430-444 頁、全北大学校、2005 年

四日市康博(中島楽章と共著)「元朝新附 = 与海外経略(元朝の新附軍と海外経略)」『元史論叢』10. 383-388 頁、2005 年

Horii Yutaka, "Venetians in Alexandria in the First Half of the Sixteenth Century", *Annals of Japan Association for Middle Eastern Studies*, 20-2. pp.131-144, 2005

<2006年>

羽田正 「現代歴史学の創成」『思想』982号、岩波書店、1-3頁、2006年

羽田正 「『有用な歴史学』と世界史」、『UP』400号、東京大学出版会、1-6頁、2006年

羽田正 「バンダレ・アッパースの東インド会社商館と通訳」、羽田正編、『港町に生きる』、(港町の世界史3)青木書店、95-123頁、2006年

Haneda Masashi and Rudi Matthee, "Isfahan.vii. Safavid Period" *Encyclopedia Iranica* 8-6. pp.650-657, 2006

深沢 克己 「コンファレンス・レポート 日本西洋史学会第55回大会公開シンポジウム『ヨーロッパの港町-空間構成と社会動態の比較史』」『西洋史学』221、59-75頁、2006年

深沢 克己 「フランス海港都市のフリーメイソン-国際社交組織と秘教思想」『港町に生きる(港町の世界史3)』青木書店、323-347頁、2006年

四日市康博 「元朝とイル=ハン朝の外交・通商関係における国際貿易商人」森川哲雄・佐伯弘次編『内陸圏・海域圏交流ネットワークとイスラム』樺歌書房、79-91頁、2006年

四日市康博 "Three Bureaucratic Systems and Supervision of International Trade under the Yuan Dynasty." *Interaction and Transformations*, vol.3, pp.21-38, 2006

四日市康博 「元朝南海交易経営考——文書と銭貨の流れから」『九州大学 東洋史論集』第34号、182-203頁、2006年

堀井 優 「エジプト社会のオスマン化—体制と貿易の変容をめぐる」『歴史学研究』822、14-22頁、2006年

堀井 優 「中世アレキサンドリアの空間構成」『港町のトポグラフィ(港町の世界史2)』青木書店、245-270頁、2006年

<2007年>

羽田正編『ユーラシアにおける文化の交流と転変』、『東洋文化研究所叢刊21』、東京大学東洋文化研究所、12+265頁、2007年

羽田正・田中明彦 「第18回アジア太平洋賞記念講演会 イスラーム世界の創造と新しい世界史」『アジア時報』38(3)、4-33頁、2007年

羽田正 「書評 家島彦一著『海域から見た歴史-インド洋と地中海を結ぶ交流史』」『東洋史研究』65(4)、83-93頁、2007年

Haneda Masashi, « Les compagnies des Indes Orientales et les interpretes de Bandar 'Abbas, » *Eurasian Studies*, V,

no.1-2, 2007.3.15, spring, pp. 175-192.

Haneda Masashi, "Modern Europe and the Creation of the 'Islamic World'," *International Journal of Asian Studies*, 4, no.2, pp. 201-220, 2007

深沢 克己 「海から見えてくるヨーロッパ文明の形成過程-沿岸港と河口内港」『水の文化』25、40-43頁、2007年

四日市康博 「モンゴル帝国の国家構造における富の分配と所有——遊牧社会と定住社会、中華世界とイラン世界」『東アジアと日本：交流と変容——統括ワークショップ報告書1』九州大学21世紀COEプログラム「東アジアと日本：交流と変容」、59-175頁、2007年

Yokkaichi Yasuhiro, "The Role of JarYuči in the Structure of Distribution System under the Mongol Empire", *Interaction and Transformations*, vol.4, pp. 93-116, 2007

四日市康博 「『元典章』斡脱関連条文訳注(2)」『東アジアと日本：交流と変容』4、11-19頁、2007年

<2008年>

羽田正 「『イスラム世界』と新しい世界史」、水島司編、『グローバル・ヒストリーの挑戦』山川出版社、66-76頁、2008年

羽田正 「西アジアの都市—その形態と構造」、秋山元秀・金田章裕・高橋誠一・山田誠編、『都市と農地景観』、『アジアの歴史地理2』、朝倉書店、99-110頁、2008年

Haneda Masashi, "Safavid Studies in Japan", *Encyclopedia Iranica*, New York, XIV-6, pp. 568-569, 2008

Haneda Masashi, "Europeans at Bandar Abbas and the 'State' of Persia in the 17th and 18th Centuries" Birgitt Hofmann, Markus Ritter ed., *Iran und iranische geprägte Kulturen*, Wiesbaden, Dr.Ludwig Reichert Verlag, pp. 85-93, 2008

羽田正 「歴史理論」『史学雑誌』117-5、2008年

Fukasawa Katsumi, « De l'Inde au Levant: routes du commerce, routes des indiennes », in: Gérard Le Bouëdec et Brigitte Nicholas (dir.), *Le goût de l'Inde*. Lorient-Rennes: Musée de la Compagnie des Indes/Presses Universitaires de Rennes, pp. 34-43, 2008.

Fukasawa Katsumi, « Les ports méditerranéens et les grandes étapes du commerce du Levant à l'époque moderne »

(平成17-19年度科学研究費補助金・基盤研究B・研究成果報告書『古代・中世・近現代ヨーロッパ港湾都市の空間構成と社会動態に関する比較史的研究』研究代表者・大津留厚、2008年、1-21頁)

深沢 克己 「三報告へのコメント—ヨーロッパ

的視点から」広島大学『史学研究』260号、
(シンポジウム特集「中・近世期の港湾都市
と海域世界のネットワーク—海・都市・宗教」)、
2008年、58-62頁

<2009年>

羽田正「人類・歴史・共生 21世紀における
「歴史学の課題」『共生の哲学のために』
(UTCP Booklet 13)、2009年

〔学会発表〕(計20件)

羽田正「ヨーロッパの「イスラーム世界」発
見」於：東京外国語大学21世紀COE「史資
料ハブ地域文化研究拠点」印刷媒体資料班研
究会、2005年6月

羽田正「バンダレ・アッパースと長崎、1728
年12月」西南アジア研究会、2005年12月、
京都大学

羽田正「イスラーム世界の創造と現代歴史学
の創成」「地域研究と中域圏フォーラム」第
7回研究会、北海道大学スラブ研究センター
2006年1月

羽田正「比較の視点からみた17-18世紀東ア
ジア海域世界における国家と貿易—通訳と
仲買人の役割を中心に—」特定領域研究「東
アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」現
地調査研究部門+海域分野合同シンポジウ
ム『東アジアの海域交流：歴史と現地研究の
方法をめぐって』2007年2月、長崎歴史博
物館ホール

Haneda Masashi, "Government Control of
Maritime Trade and Interpreters in East
Asia in the Eighteenth Century: From a
Comparative Perspective", Annual Meeting
of the Association for Asian Studies at
Boston. 2007.3.

羽田正「イスラーム世界・新しい世界史・国
民国家日本」東京財団国家論研究会、2007
年3月

羽田正「東アジア海域世界の変容」「にんぷ
ろ」海域分野有志研究会、2007年4月、大阪
大学文学部

羽田正「中東研究とイスラーム」第23回日
本中東学会大会シンポジウム報告、2007年5
月12日、東北大学

羽田正「イスラーム世界の発見と新しい世界
史」UTフォーラム in Seoul、ソウル大学校、
2007.6.25

Haneda Masashi, Second Workshop of the
International Associated Laboratory
between the CNRS and the University of
Tokyo, CNRS, Paris, Ecole des Hautes
Etudes en Science Sociale, 2007.11.28-29

Haneda Masashi, "Common and Different
Characteristics of Canton and Nagasaki
Compared with port cities of the Indian
Ocean", at the international conference on

"Canton and Nagasaki Compared,
1730-1830, Dutch, Chinese, Japanese
Relations", Sun Yat-sen University
(Guangzhou), 2007.12.3

羽田正「インド洋海域世界とイスラーム」関
西大学三研究所連立型研究班公開シンポジ
ウム「アジアが結ぶ東西世界」(招待講演)
関西大学、2008年9月

Haneda Masashi, "Japanese Historical
Studies in Crisis and a New World History,
5th LIA meeting at the University of Tokyo,
2008年11月

羽田正「イスラーム世界と新しい世界史」
2008年度史学研究会大会講演、2008年11
月、京都大学文学部

羽田正「総論—シンポジウムの趣旨と東アジ
ア海域史の課題」特定領域研究「東アジアの
海域交流と日本伝統文化の形成」総括班主催
シンポジウム「東アジア海域史研究の課題と
新たな視角」、2008年11月、国民宿舎宮島
杜の宿

羽田正「東アジア海域世界史研究の方法と意
義」「世界史の中の東アジア海域」国際会議、
2009年6月、復旦大学文史研究院

羽田正「日本におけるイスラーム世界概念の
形成と歴史研究」第50回全国歴史教育研究
協議会大会、2009年7月、慶應義塾大学

Haneda Masashi, "Keynote speech", 2nd
Canton and Nagasaki Compared
Conference, University of Tokyo, 2009年11
月

Haneda Masashi, "Eurasia in the Modern
Period: Towards a New World History", 6th
LIA meeting at Ecole des Hautes Etudes en
Science Sociale (Paris), 2009年12月

Fukasawa Katsumi, "Du Rite Français au
Rite Écossais Rectifié: le choix de la Loge
de la Triple Union de Marseille à la fin du
XVIII^e siècle", in: Diffusions circulations
des pratiques maçonniques en Europe et
en Méditerranée, XVIII^e-XIX^e siècles.
Colloque international des 2 et 3 juillet
2009, Université de Nice-Sophia Antipolis

〔図書〕(計13件)

<2005年>

羽田正『イスラーム世界の創造』東京大学
出版会、342頁、2005年

<2006年>

羽田正(編)『港町の世界史3 港町に生きる』
青木書店、360頁、12+347pp.+0、2006年、

羽田正(編訳)『フランス東インド会社とポン
ディシエリ』山川出版社、131頁、2006年

深沢克己(編)『港町の世界史2 港町のトポグ
ラフィ』青木書店、366頁、2006年

深沢克己(編)『信仰と他者・寛容と不寛容の

ヨーロッパ宗教社会史』東京大学出版会、346
頁、2006年

<2007年>

羽田正『東インド会社とアジアの海』、『興
亡の世界史』15)、講談社、10+390pp.、2007
年

柴田三千雄・木谷勤・近藤和彦・羽田正・石
橋崇雄・大津留厚・高山博・中野隆生『世界
の歴史』(世界史A教科書・教科書番号018)
改訂版、山川出版社、2007年

深沢克己『商人と更紗 近世フランスレヴァ
ント貿易史研究』東京大学出版会、342頁、
2007年

<2008年>

四日市康博『モノから見た海域アジア史：朱
元時代のアジアと日本の交流』九州大学出版
会、198頁、2008年

<2009年>

Haneda Masashi, ed. *Asian Port Cities
1600-1800. Local and Foreign Cultural
Interactions*, Singapore, NUS Press &
Kyoto University Press, p.16+233 2009

Haneda Masashi, ed., *Sécularizations et
Laïcités*, (UTCP Booklet 7), The University
of Tokyo Center for Philosophy, pp.112,
2009

羽田正編、『世俗化とライシテ』、『UTCP
Booklet』、6巻、122頁、2009年

深沢克己(編訳)『「啓蒙の世紀」のフリーメ
イソン』山川出版社、147頁、2009年

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/maritime/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

羽田 正 (Haneda Masashi)

研究者番号: 40183090

(2) 研究分担者

研究者番号:

(3) 連携研究者

深沢 克己 (Katsumi Fukasawa) 60199156

四日市 康博 (YOKKAICHI Yasuhiro) 40404082

堀井 優 (Yutaka Horii) 70399161

研究者番号: